

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	北消防署救急救助活動事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	02	2節	生活の豊かさを実感できる流山（生活環境の整備）	主管課	北消防署			
施策	2-3	自然災害・都市災害への備えと予防		主管課長	吉野 康雄			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内在住者・在勤者	意図	災害、事故及び疾病等による傷病者を適切な医療機関に搬送すること。
事業内容	救急業務及び事故、災害等の救助業務。応急手当の普及業務。多様化する現場を想定した救急救助訓練。			
事業開始から現在までの状況変化	平成14年から北消防署となった。地域環境が変化し災害の複雑多様化、予防行政の高度化、防災行政の重要性により業務の増加が予想される。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	救急出動件数（北署管内）	1,993	2,073	1,973	件	↓↓↓
②	救助出場件数（北署管内）	25	29	29	件	↓↓↓	
③	普通救命講習会修了者数	173	229	163	人	↑↑↑	
④	バイスタンダーCPR	36	43	44	人	↑↑↑	
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果				目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成22年から消防団員による普通救命講習会の定期開催が始まった。署員は多様化する災害事案に対応するため、訓練や講習会を定期的実施している。
事務事業の総コスト(a=b+c)	49,447,179	62,343,851	54,467,322	
事業費(b)(円)	1,392,179	1,935,851	1,731,322	
うち一般財源	1,392,179	1,935,851	1,731,322	
職員給与費(c)(円)	48,055,000	60,408,000	52,736,000	
人役・職員(人)	7.00	9.00	8.00	
人役・再任用(人)				
人役・臨職(人)				
人役・嘱託(人)				
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）				
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）				

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	C 対象が広すぎる
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	救急活動の円滑化、応急処置の高度化、市民に対する普通救命講習会を開催し応急手当、AEDに対する理解、協力を普及させる。	③取組における課題(Check)	救急救命士の処置範囲の拡大など、救急業務の高度化に伴い、救急隊に対する積極的な研修参加や救急隊到着前に市民の行う応急処置が求められる。
②H30に実施した取組(Do)	救急隊員の各種講演会、症例検討会、病院実習への参加。市民を対象とした救急訓練や普通救命講習会の実施。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	救急隊員に対し各種研修会の参加を求め多様化する救急業務に対応できる隊員を育成するとともに市民に対しAEDを含めた応急手当の普及を図る。